

平成 23 年 2 月 26 日
競技運営委員会

2011 年度ルール改正の改正内容と改正箇所について

今回の改正の主たる点は、ファイナルの実施方法であり、すべての種目において実施手順が変更されます。特にラピッド・ファイア・ピストル種目のファイナルは、従来の本選得点+ファイナル得点方式から、本選得点はファイナル出場選手 6 名を選ぶだけに利用され、かつファイナルも 9.7 点以上を 1 ポイント、以下を 0 ポイントとしてポイント制による順位決定方法に変わります。また、2011 年 4 月から選手、役員の服装に関するガイドライン(いわゆる ISSF ドレスコード)についても順次国内競技会に導入することとなりました。

I. ルール改訂について

1. ファイナル実施手順の変更

全てのファイナル実施競技で、ファイナリストの紹介の手順が変更となります。例として、10m、50mライフルを記します。

- ①射座にファイナル出場者が集合 (30分前)
- ②用具の準備 (20分前)
- ③準備および試射時間 (ウォームアップ時間) (14分30秒前)
- ④準備の終了 6分30秒前
- ⑤ファイナリストの紹介 5分30秒前

注) 従来は、ファイナリストの紹介が終わってから、射座に入り、準備をすることになっていましたが、改訂ルールでは試射が終わってから、ファイナリストの紹介があり、すぐにファイナルが開始されます。

- ⑥最終準備 2分30秒前
- ⑦標的のリセット 30秒前
- ⑧ファイナルの開始
- ⑨成績発表 各撃発後 (この手順が 10 発、ファイナルが完了するまで繰り返される。)
- ⑩ファイナルの完了
- ⑪メダリストの発表
- ⑫同点の順位決定

シュートオフによって順位を決定するのは 3 位まで。4 位以下の同点は、シュートオフを行わず、ファイナルの成績を含めたシリーズ得点のカウントバックによって決定されます。

II. ISSF ドレスコード (ガイドライン) の導入について

ISSF 6.4.2.1 :「公式行事の参加者として適切な服装で射場に現れることは競技者の責任である。このことはジュリーによって管理されなければならない。迷彩生地 of 衣服は禁止される」とあり、ISSF は、2010 年から実施しましたが、当協会は、ガイドラインの範囲等が明確にされていないことから昨年度は適用を見送ってきました。その後、海外に派遣したジュリーより WC 杯におけるドレスコードの実施状況についての情報が得られましたので、ISSF ドレスコードの主旨と、日本国内の競技環境等を勘案して、次の運用

を行うことにしました。

①対象となる競技会は、公認競技会の格付規程に定めるグレード1、グレード2、格上グレード3の競技会とする。

②適用範囲は、射座、役員通路、表彰会場とする。開始時期は、平成23年4月1日。ただし、平成24年3月31日までは当該選手等に対して趣旨を説明し、服装違反を正すように指導したうえで、競技会参加を認める。

③競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、またはスポーツに適さない色の似たようなズボン、カモフラージュ柄の衣服、ノースリーブのシャツ、短すぎる短パン、ほつれた切り口の短パン、全てのタイプのサンダル、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージの書かれた短パンやズボンが含まれる。なお、チノパンツ、ブルー以外の色のジーンズについては当面の間は可とする。

④原則として、ISSFドレスコードは当協会の公認する競技会のジュリーや射場役員を含む技術役員にも適用される。競技会の期間中、これらの役員は禁止された服装の着用は認められない。公式ユニフォームまたは適切な服装を着用しなければならない。

Ⅲ. 競技運営に関する国内規程ルール6.4.10.2 (ガイドライン)

国内規程 6.4.10.2 : 「競技会に参加する射手は、会員証、銃砲所持許可証、火薬類譲受許可証、射手手帳を持参しなければならない。使用する銃器、弾薬は日ラ検定済みのものとする。」とあり、競技会開催時に実施される検査において必要とされる物は次のとおりとするガイドラインを設けました。

①銃砲所持許可証

銃砲所持許可証、年少射撃資格者の場合は年少射撃資格認定証と年少射撃監督者の銃砲所持許可証の両方、省庁銃については所属長の発行する携帯証明書。

ただし、年少射撃監督者が自身の指導用空気銃、指導用空気けん銃を使用して競技会に参加することは認められない。

同様に、猟銃等製造事業の許可、猟銃等販売事業の許可による銃砲を使用しての競技会参加は認められない。

②日ラ会員証

日ラ会員証を忘れた場合は、当該選手の所属する加盟団体の責任者による確認が取れた場合については、競技会参加を認める。

③射手手帳

射手手帳を忘れた場合は、いろいろな証明に必要なものと注意したうえで、競技会参加を認める。

④火薬類譲受許可証

火薬類譲受許可証を忘れた場合は、今後携帯するよう注意したうえで、競技会参加を認める。

IV. ルール改正の条文（変更箇所のみ記載）

- 5.1.3.3 アンチドーピング委員会はドーピング検査の検査配分計画の作成、監督、および公正な執行に責任を負う。
- 5.5.3.1 禁止物質や禁止方法の使用が必要とされる症状となった射手は、TUE（治療目的使用に係る除外措置）を取得しなければならない。TUEを申請する射手には、ADAMSを通じて居場所を提出するとき同時に、申請することを推奨する。TUE申請手続きおよび認定、非認定手続きはTUEの国際基準の申請規定により常に管理されている。ISSF大会に参加する射手は、検査対象者登録リストに掲載されているかどうかにかかわらず、大会に参加する30日前までにTUEを申請すべきである。しかしながら、申請できるならば、射手はTUEの国際基準の申請規定に従い、遡及的TUEを申請することができる。
- 5.6.4.1 国際レベル検査対象者登録リスト
国際レベル検査対象者登録リストは、ISSFのインターネットウェブサイト上で発表され、それぞれの国際大会ごとに毎月更新されるISSF公式世界ランクリストの上位の射手によって構成される。毎年1月1日時点でのISSF公式世界ランクリストの上位5名の射手によって国際レベル検査対象者登録リストは作られる。その年のうちにISSF公式世界ランクリストの上位5位までに入った射手は自動的にその年の国際レベル検査対象者登録リストに登録されることになる。
- 5.9.1.1 ISSF大会でのISSFの検査に関して、5.8で述べられている結果管理過程を実施していく際に、このアンチドーピングルールに対する違反が明らかになったときには、アンチドーピング調査委員会が開設される。
- 5.9.1.2 <削除>
- 5.9.1.3 <削除>
- 5.9.4 こうして、その件に関する証拠、陳述、書類を入手したら、調査委員会は次の事を満たさなければならない。
- 5.9.4.1 アンチドーピングルール違反の認定と処分の基となる検査の国際基準、TUEの国際基準や分析機関の国際基準からの逸脱がないこと。
- 5.9.4.2 執行委員会が合理的な判断をすることができるように、その件に関するすべての状況について十分な情報を報告すること。
- 5.9.4.3 上記の基準を満たすことのできない大会では、調査委員会はその件における更なる証拠、専門家の意見を求めるか、またはアンチドーピング違反とする違反が疑われる分析報告を公にしない決断をする。
- 5.9.5 こうして調査委員会は手続き上の不備やルールからの逸脱がないというこ

- とを満足させ、確信の持てる、その件に関する全ての事実を受け取り、
- 5.9.5.1 もし射手またはその他の人が文書による聴聞を選んだ場合、調査委員会はその件を執行委員会に引渡し、引き渡された執行委員会は提出された証拠に基づき、適切な時期に文書による措置の説明をした決定をすることができる。
- 5.9.5.2 もし射手が口頭聴聞による方法を選んだ場合、調査委員会はその件を、執行委員会から任命された少なくとも1名の弁護士、1名の医者を含む3名からなる聴聞パネルに引き渡す。この聴聞パネルはその件を聴聞し、ISSF執行委員会の承認を受け、執行委員会を代表して文書による措置の説明をした決定を行う。
- 5.9.5.3 いずれの場合においても、執行委員会の決定は、射手またはその他の人、関係国の連盟およびWADAに通達されなければならない。
- 5.9.6 射手やその他の人は聴聞に先立って、明白となったアンチドーピングルール違反の承認や5.10や5.11の結果を受け入れることができる。
- 5.9.6.1 聴聞会に参加する権利は、明示的に、もしくは射手またはその他の人がアンチドーピングルール違反を起こしたというISSFの主張に対して10日間以内に、異議を申し立てなかったことにより放棄される。
- 5.9.6.2 5.9.6により、聴聞会が開かれられない場合、調査委員会は、文書による措置の説明をした決定を、執行委員会の承認を受け、執行委員会を代表して行うべきである。
- 5.9.6.3 文書による決定はその射手またはその他の人、関係国の連盟およびWADAに通達されるべきである。
- 5.9.7 いずれの場合においても、決定を行う責任を負う決定機関は独立し不偏であるべきである。
- 5.9.7.1 執行委員会に任命される調査委員会や聴聞パネルの構成員は、関係する射手やその他の人と同じ国の者であってはならない。
- 5.9.7.2 関係する射手やその他の人と同じ国の執行委員は決定の過程に関わることを辞退すべきである。
- 5.9.8 国内大会に関わる聴聞会
- 5.9.8.1 国内大会で実施された検査に関して、結果管理過程を実施していく際に、ISSFアンチドーピングルールに対する違反が明らかになったときには、その射手またはその他の人を含めて、その射手またはその他の人の所属する加盟競技団体の懲罰委員会が開かれる前に、このルールに対する違反が起こったかどうか、また、そうであるなら、アンチドーピングルールに従って、適切な結果と制裁を科するかどうかを裁定する聴聞会が行われる。この決定は資格停止期間の説明を含む文書での理由説明書として行われる。

- 5.9.8.2 国内レベルの聴聞会では自然正義の原理とすべての事例で結果管理過程の完了から3ヶ月間以内に迅速に完了するということが保証される。聴聞会の完了が3ヶ月間を超えた場合、ISSFは、ISSF理事会が制裁の決定をする前に、直接取扱う事例として選ぶことができる。そうなった場合、経費はその加盟競技団体が負担する。
- 5.9.8.3 射手やその他の人は聴聞に先立って、ISSFアンチドーピングルール違反の承認や加盟競技団体によって提案される5.10や5.11に合致したものとほぼ同じ結果を受け入れることができる。聴聞会に参加する権利は、明示的に、もしくは射手またはその他の人がアンチドーピングルール違反を起こしたという加盟競技団体の主張に対して、5.8.1.6に記述されるように10日間以内に、異議を申し立てなかったことにより放棄される。聴聞会が開られない場合、加盟競技団体は、その射手やその他の人に対し、5.14.3.1にあるように、このルールに基づき資格停止期間を科すか、委託資格停止期間を短縮した説明を含む文書による決定理由書を提示する。
- 5.9.8.4 国内レベルの聴聞会で提案された裁定は、5.16に従い、ISSF調査委員会およびISSF管理理事会により、再検討される。
- 5.9.8.5 国内レベルの聴聞会で提案された裁定は、ISSFやWADAのそれぞれのルールに従って、ISSFやWADAによって不服申し立てできる。
- 5.21.3 最初のISSFアンチドーピングルールは1982年10月30日にベネゼイラのカラカスで行われたUIT (ISSF) の通常総会において承認され、1996年4月22日にアメリカ合衆国のアトランタで開かれた管理理事会での改正、2000年3月21日にオーストラリアのシドニーで開かれた管理理事会での改正、2001年7月17日にエジプトのカイロで開かれた管理理事会での改正、2001年6月17日にドイツのミュンヘンでの満場一致の郵便投票による改正を経て、2003年11月7日の郵便投票によって改正され、2004年1月1日より有効となり、2007年1月25日に郵便投票によって改正され、即時有効となり、2009年12月19日に郵便投票によって改正され、いくつかの訂正と改正は2010年7月26日の管理理事会で承認され、即時有効となった。

用語定義

競技会 (Competition) 1つの競争、対戦、試合や単独の運動競技のことで、例えば、バスケットボールの試合やオリンピックにおける100m走の決勝などが挙げられる。このアンチドーピングルールにおいては、競技会とはISSF大会における個人戦などにあたる。例えば、50mライフル伏射男子、50mライフル3姿勢男子、スキート、スキート団体、25mピストル女子などISSFワールドカップ大会などで行われる全ての競技種目にあたる。

る。

注) このアンチドーピングルール以外の射撃スポーツにおける通常の文書においては“**Competition** (競技会、大会)”は1つの実施団体のもとで運営されるスポーツ大会を意味する。例えば、オリンピック大会、ISSF世界選手権大会、パンアメリカン大会、ワールドカップ大会や大陸選手権大会などである。

競技会外

競技会内ドーピングコントロール以外の全てのドーピングコントロール。大会における個別の競技会の開始12時間以上前の期間を意味する。

注) もしもワールドカップがある月の1日から5日まで行われるとし、ある射手が3日に行われる競技会のみに参加を予定していた場合、大会は1日から始まっているとはいえ、その射手は、3日に行われるその射手の参加する予定の競技会の開始12時間前の時点までは、ドーピングコントロールとしては競技会外の検査を受ける。

競技会内

その射手が参加する予定の個別の競技会の開始12時間前から始まり、その競技会が終了し、その競技会に関する検体採取の手続きの終わりまでの期間を意味する。

大会 (Event)

1つの実施団体のもとで運営される個別競技会の連なったもの。例えば、オリンピック大会、FINA世界選手権大会、パンアメリカン大会や射撃のワールドカップ大会などである。

注) このアンチドーピングルール以外の射撃スポーツにおける通常の文書においては“**Event** (種目)”は、それらの文書の中で定義されているように、ファイナルやシュートオフを含むまたは含まない完全な対戦試合を意味する。

大会期間

大会の最初の競技会(Competition)の開始から最後の競技会(Competition)が終了し、その競技会に関する検体採取の手続きの時間を含んだ期間。

6.11.5.2

射撃が5分以上中断させられた場合、または射座を移動させられた場合、射手は中断した時間に5分間加算された延長時間を加えた残り時間の初めに1枚の試射的に対して弾数無制限の試射をすることができる。新しい試射的の挿入ができない自動標的交換機が使用されている場合、その試射は次の未使用の本射的に行われるべきである。その次の本射的には2発(残っている発射弾が1発でない限り)の本射弾が、射場役員またはジュリーの指示に基づき、撃ち込まれるべきである。射場役員またはジュリーは射場事故報告書と使われているならば記点係の個票にこのことの完全な説明が記録されていることを確認しなければならない。

※6.16

オリンピック種目のファイナル

6.16.1

競技手順概要

- 6.16.1.1 それぞれのオリンピック種目のフルプログラムは、ファイナリストを決める本選として実施されなければならない。本選における上位8名、ラピッドファイアピストル男子では上位6名の選手がファイナルに進める。射座は、本選における選手の順位によって左から割り当てられる。
- 6.16.1.2 ファイナルの採点には、ラピッドファイアピストル男子を除き、各得点圏を10分割できる（1.0、1.1、1.2、1.3など、最高得点は10.9）電子標的か自動採点機または手動ゲージが使用されなければならない。紙標的上の弾痕で、自動採点機の使用ができないものは、ISSF公認機具を用い、ジュリーが、手動で採点する。
- 6.16.1.3 全ての号令は英語で行われなければならない。
- 6.16.2 **ファイナル射場への出頭**
- 6.16.2.1 チームリーダーは、ファイナルの予定開始時刻の少なくとも30分前までに射手をファイナルに必要な用具を全て携えて待機場所に出頭させ、ジュリーに報告する責任を負う。ファイナリストは用具、競技用の服装および表彰式で着用するチームユニフォームを報告しなければならない。射手は射撃のできる服装で、ファイナルに必要な用具のみを携帯していなければならない。ジュリーと射場役員は、この待機場所にて、競技前チェックおよび引金の重さのチェックをこのときに優先して完了しなければならない。銃ケースおよび用具箱は射撃線の後の競技場内に残しておいてはならない。
- 6.16.2.2 **出頭報告締切時刻**は公式プログラムに記載されていなければならない。プログラムの遅れはファイナル射場に放送、掲示されなければならない。
- 6.16.2.3 射手が待機場所に遅れて出頭してきた場合、ファイナルの本射1発目の得点から2点のペナルティが減点される。
- 6.16.3 **ファイナリストの紹介**
- ファイナリストの紹介の始まった時に指定された射座にいないファイナリストは本選の成績により自動的にファイナルの最下位が与えられ、ファイナルへの参加は許されない。アナウンサーはファイナリストの名前、本選成績、それぞれのファイナリストの最重要な実績の短い情報によりファイナリストを紹介してゆく。アナウンサーは担当の射場長およびジュリーも紹介する。準備と試射時間のあと、ファイナリスト全員は観客と向きあうように後ろを向き、全員の紹介が終わるまで、観客の方を向いて立っていなければならない。その後、ファイナリストは射座へ戻る事が許され、最終準備時間前から準備時間中、銃器の取り扱い、空撃ち、据銃、照準練習を行うことができる。
- 6.16.4 **10mおよび50mのライフルおよびピストル種目**
- 6.16.4.1 **射撃時間**

種目	男子／女子	射撃時間
10mエアライフル／エアピストル	男子	75秒
10mエアライフル／エアピストル	女子	75秒
50mライフル3姿勢（立射）	男子	75秒
50mライフル3姿勢（立射）	女子	75秒
50mライフル伏射	男子	45秒
50mピストル	男子	75秒

- 6.16.4.2 **各種目におけるファイナリスト：8名**
- 6.16.4.3 **スターティングポジション（射座）**
 ファイナルに進出した射者は、その本選の順位によって左から射座が割り当てられる。
- 6.16.4.4 標的数：10個
- 6.16.4.4.1 予備射座は、8個のファイナル射座の左右に各1個ずつ準備され、本射的が掲示されていないなければならない。
- 6.16.4.4.2 ファイナルの競技中、選手の最新順位を表示するモニターは射撃線の前方に置かれ、すべての選手が見ることができなければならない。このモニターが故障した場合は妨害とはみなされない。
- 6.16.4.4.3 **紙標的の特則**
- 6.16.4.4.3.1 試射的の数：各種目4枚
- 6.16.4.4.3.2 本射的への発射弾数：1的1発
- 6.16.4.4.3.3 本射的の数：各種目10枚
- 6.16.4.4.4 **電子標的の特則**
- 6.16.4.4.4.1 観客用のモニターに表示される標的はすべてのモニターとも同じものでなければならない。観客にとって見やすいものでなければならない。
- 6.16.4.5 **競技ルール**
- 6.16.4.5.1 各ファイナルの**開始時刻**には本射1発目の“LOAD（ロード）”の号令がかけられる。このファイナル開始時刻は公式プログラムに記載されていないなければならない。プログラムの遅れはファイナル射場に放送、掲示されなければならない。
- 6.16.4.5.2 “START”の号令前、または“STOP”の号令後の発射弾は0点と記録される。
- 6.16.4.5.3 射手が1発の発射時間内に2発以上発射した場合、その本射弾は0点と採点される。
- 6.16.4.5.4 標的キャリアーが使用されている場合、隣接射手の妨害とならないように、“STOP”、“CHANGE TARGETS”の号令の後にはのみ、標的

を交換しなければならない。

6.16.4.5.5 照準練習は許される。

6.16.4.5.6 最終準備および試射時間の後の空撃ちは禁止され、1回につき2点の減点がファイナルの本射1発目に科せられる。

6.16.5 10mおよび50m種目のファイナル手順

ファイナル	ファイナルは10発で構成され、1発1発が次の号令と手順によって実施される。
ファイナリストの出頭 30分前	ファイナリストは、6.16.2に従い、ファイナル待機場所にファイナル開始時刻の少なくとも30分前に出頭しなければならない。
用具の準備 20分前	“I CALL THE SHOOTERS TO THE LINE. (アイ コール ザ シューターズ トゥー ザ ライン)”の号令により、ファイナル開始時刻の20分前に、射場長はファイナリストが指定された射座に入り、用具を運び入れ、銃を取扱うことを許可しなければならない。銃ケースと用具箱は射撃線の後のファイナル射場の競技場(FOP)内に残しておいてはならない。照準練習は用具準備時間内にすることができる。準備および試射時間の開始前には空撃ちおよび弾の装填は許されない。
準備および試射時間 (ウォームアップ時間) 14分30秒前	“EIGHT MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME..... START. (エイト ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”の号令により、射場長はファイナリストのファイナルの準備を許可する。ファイナリストは8分の間に準備を完了し、射撃姿勢をチェックし、無制限の試射を撃つことができる。ウォームアップ時間の残りが30秒になったとき、“30 SECONDS (サーティ セコンズ)”の号令を射場長がかける。ウォームアップ時間が終わったときには、“STOP, UNLOAD (ストップ、アンロード)”の号令を射場長がかける。
準備の終了 6分30秒前	“STOP, UNLOAD”の号令のあと、ファイナリストは銃をベンチまたは床に置かなければならない。射場役員は薬室が開放され、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認しなければならない。次にファイナリスト全員は後ろを向き、観客と向かい合わせにならなければならない。注) ファイナルのテレビ放送は通常この時点から始まる。
ファイナリストの紹介 5分30秒前	アナウンサーはファイナリストの名前、本選成績、それぞれのファイナリストの最重要な実績の短い情報によりファイナリスト

	を紹介してゆく。アナウンサーは担当の射場長およびジュリーも紹介する。	
最終準備 2分30秒前	紹介のあと、射場長は“TAKE YOUR POSITION S..... TWO MINUTES FINAL PREPARATION AND SIGHTING TIME..... START. (テイク ユア ポジション ツー ミニッツ ファイナル プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”の号令をかける。ファイナリストは2分の間に射撃姿勢を取り直し、準備をし、試射やウォーミングショットを撃つことができる。90秒後、射場長は“30 SECONDS (サーティ セコンズ)”の号令をかけ、2分後に“STOP (ストップ)”の号令をかける。	
標的のリセット 30秒前	30秒間の中断時間がとられなければならない。この間に技術役員は標的をリセットする。	
ファイナルの開始	“FOR THE FIRST/NEXT COMPETITION SHOT - LOAD (フォー ザ ファースト/ネクスト コンペティション ショット ロード)”	この号令の後、射手は銃に弾を込める。弾は“LOAD (ロード)”の号令の後にのみ薬室に装填されなければならない。
	“ATTENTION 3-2-1-START (アテンション スリー ツー ワン スタート)”	射手は75秒以内に発射する(伏射の場合は45秒)。 カウントダウンの号令には射手が射撃姿勢をとるに十分な時間をかけるべきである。 射撃時間は“START (スタート)”の号令がかけられたときから始まる。
成績発表 各撃発後	75秒(伏射は45秒)後またはすべてのファイナリストが1発撃ち終わった後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。この号令は最終の射手が発射した約5秒後、または射撃時間の終了したときただちにかける。最後の1秒が“STOP”の号令と一致しなければならない。 “STOP”の号令の後、直ちにアナウンサーはそれぞれのファ	

	<p>イナリストの名前（苗字）と得点を発表し、その後15から20秒間、現在のトップ、ベストショット、順位変動などのコメントを行う。</p> <p>発表の後、直ちに射場長は次の撃発の号令をかける。</p>
<p>この手順が10発、ファイナルが完了するまで繰り返される。</p>	
<p>ファイナルの完了</p>	<p>10発目の後、射場長は“STOP, UNLOAD（ストップ、アンロード）”の号令をかける。10発目の後は個別の成績発表は行われない。もし同点や抗議がなければ、直ちに射場長は“THERE ARE NO TIES. RESULTS ARE FINAL.（ゼアラー ノー タイズ リザルツ アーファイナル）”と宣言しなければならない。その後ファイナリストは射座を離れることができる。</p>
<p>メダリストの発表</p>	<p>射場長が“RESULTS ARE FINAL”と宣言した後、アナウンサーは直ちに次のアナウンスを行う。</p> <p>「優勝は（名前）選手、（所属）、得点（総得点）点。」</p> <p>「2位は（名前）選手、（所属）、得点（総得点）点。」</p> <p>「3位は（名前）選手、（所属）、得点（総得点）点。」</p>
<p>同点の順位決定</p>	<p>ファイナルの後、1位、2位、3位において同点の場合はシュートオフによって順位を決定する。4位以下の同点はファイナルの成績によって決定される。ファイナルの成績で決定できない場合は本選の成績によって決定される。1位と3位で同点であった場合、3位決定から先に行われる。</p> <p>同点がある場合、射場長は“COMPETITORS IN POSITIONS # AND #, STAY ON THE FIRING LINE – OTHER SHOOTERS LEAVE THE FIRING LINE.（コンペティター イン ポジションズ # アンド #、ステイ オン ザ ファイアリング ライン アザー シューター リーブ ザ ファイアリング ライン）”の号令によって直ちに同点の順位決定を進行しなければならない。シュートオフを行う射手は射撃線に残り、他の全ての射手は射撃線に銃を置いて直ちに射座から出なければならない。</p> <p>“COMPETITORS IN POSITIONS # AND #, FOR YOUR SHOOT-OFF SHOT, LOAD..... ATTENTION, 3-2-1, START（コンペティター イン ポジションズ # アンド #、</p>

	<p>フォー ユア シュートオフ、ロード アテンション スリー ツー ワン スタート)”の号令で開始され、同点の 順位が決定されるまで1発ずつ続けられる。</p> <p>50m種目で複数の順位で同点があった場合のみ。ファイナル後 5分以上の空きがあった場合、要求により、射場長は“WARM ING SHOTS..... START (ウォーミングショット スタート)”の号令をかける。選手は30秒で3発以内のウォー ミングショットを行う。射場長は30秒後に“STOP (ストッ プ)”の号令をかける。</p> <p>同点の順位が決定された後、射場長は“RESULTS AR E FINAL. (リザルツ アー ファイナル)”の号令をかける。</p>
--	---

6.16.6 25mピストル女子種目のファイナル手順

ファイナル	25mピストル女子のファイナル競技は速射(標的3秒出現)で5発のシリーズ4回で構成される。																																	
本選	60発のフルプログラム(8.6.4.4)がファイナルのための本選として実施される。本選における上位8名の選手がファイナルに進める。射座は、本選における選手の順位によって左から(1位の射手が1的、2位の射手が2的のように)割り当てられる。本選の成績はファイナルに持ち越され、最終成績に含まれる。																																	
標的	<p>5的グループを2つ使用する。ファイナリストは図に従って射座を割り当てられる。コントロールシートまたはコントロールカードとバックターゲットはシリーズ間で交換したり治療したりしない。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th colspan="5">A</th> <th colspan="5">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>標的</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>(3)</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>(3)</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>射座</td> <td>1st</td> <td>2nd</td> <td>—</td> <td>3rd</td> <td>4th</td> <td>5th</td> <td>6th</td> <td>—</td> <td>7th</td> <td>8th</td> </tr> </tbody> </table>	グループ	A					B					標的	1	2	(3)	4	5	1	2	(3)	4	5	射座	1 st	2 nd	—	3 rd	4 th	5 th	6 th	—	7 th	8 th
グループ	A					B																												
標的	1	2	(3)	4	5	1	2	(3)	4	5																								
射座	1 st	2 nd	—	3 rd	4 th	5 th	6 th	—	7 th	8 th																								
出頭と開始時刻 30分前	ファイナルの開始時刻には本射第1シリーズの“ LOAD (ロード)”の号令がかかる。6.16.2に従い選手は少なくとも開始時刻の30分前に待機場所に出頭しなければならない。																																	
用具の準備 15分前	“ I CALL THE SHOOTERS TO THE LINE. (アイ コール ザ シューターズ トゥー ザ ライン)”の号令により、ファイナル開始時刻の15分前に、射場長はファイナリストが指定された射座に入り、用具を運び入れ、銃を取扱うことを許可しなければならない。銃ケースと用具箱は射撃線の後のファイナル射場の競技場(FOP)内に残しておい																																	

	<p>てはならない。照準練習は用具準備時間内にすることができる。準備時間の開始前には空撃ちおよび弾の装填は許されない。</p>	
<p style="text-align: center;">準備時間と試射 10分前</p>	<p>ファイナリストが射撃線に呼び出されてから5分後、射場長は“PREPARATION TIME BEGINS NOW. (プレパレーション タイム ビギンズ ナウ)”の号令により2分間の準備時間を開始する。</p> <p>2分後、射場長は“END OF PREPARATION. (エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。</p> <p>試射シリーズは準備時間の後直ちに開始されなければならない。試射シリーズは速射による1回のシリーズから構成される。すべてのファイナリストは、試射シリーズおよび本射シリーズを、同じ時間で同じ号令によって射撃を行う。</p>	
	<p>“FOR THE SIGHTING SERIES..... LOAD (フォーザ サイティング シリーズ ロード)”</p>	<p>全射手は1分間以内に弾を込める。</p>
	<p>“ATTENTION (アテンション)”</p>	<p>赤色ランプが点灯しなければならない。紙標的の場合、標的は隠れた状態にならない。7秒(+/-1.0秒)後に緑色ランプが点くか、標的が射手と正対する。</p>
<p style="text-align: center;">ファイナリストの紹介 6分前</p>	<p>試射シリーズの後、アナウンサーはファイナリストの名前、本選成績、それぞれのファイナリストの最重要な実績の短い情報によりファイナリストを紹介してゆく。アナウンサーは担当の射場長およびジュリーも紹介する。ファイナリストの紹介の始まった時に指定された射座にいないファイナリストは本選の成績により自動的にファイナルの最下位が与えられ、ファイナルへの参加は許されない。紹介のあと、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS..... TWO MINUTES FINAL</p>	

	<p>PREPARATION TIME BEGINS NOW. (テイク ユア ポジション ツー ミニッツ ファイナル プレパレーション タイム ビギンズ ナウ)”の号令をかける。</p>	
ファイナルの開始	次の号令と時間が使われる。	
	<p>“FOR THE FIRST/NEXT COMPETITION SERIES..... LOAD (フォーザ ファースト/ネクスト コンペティション シリーズ ロード)”</p>	全射手は1分間以内に弾を込める。
	<p>“ATTENTION (アテンション)”</p>	赤色ランプが点灯しなければならない。紙標的の場合、標的は隠れた状態にならない。7秒(+/-1.0秒)後に緑色ランプが点くか、標的が射手と正対する。
<p>成績発表 5発シリーズごとに</p>	それぞれの本射シリーズの5秒後、アナウンサーはそれぞれのファイナリストの名前(苗字)と得点を発表し、その後15から20秒間、現在のトップ、ベストショット、順位変動などのコメントを行う。順位についてのコメントの10秒後、次のシリーズが開始される。	
この手順が4回の5発シリーズが完了するまで繰り返される。		
ファイナルの完了	全ファイナリストが4回の本射シリーズを撃ち終わった後、もし同点や抗議がなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL. (リザルツ アー ファイナル)”とアナウンスする。ファイナリストは本選とファイナルの得点の合計によって順位決定される。	
メダリストの発表	<p>“RESULTS ARE FINAL”の後、アナウンサーは直ちに次のアナウンスを行う。</p> <p>「優勝は(名前)選手、(所属)、得点(総得点)点。」 「2位は(名前)選手、(所属)、得点(総得点)点。」 「3位は(名前)選手、(所属)、得点(総得点)点。」</p>	
故障	故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確かめなければならない。許容できる故障ならば、8.7に従い、選手はシリーズを完了させなければならない。	

	<p>ファイナルを通して1回の許容できる故障のみ完射することができる。</p>
同点の順位決定	<p>ファイナルの後、1位、2位、3位において同点の場合はシュートオフによって順位を決定する。4位以下の同点はファイナルの成績によって決定される。ファイナルの成績で決定できない場合は本選の成績によって決定される。</p> <p>同点の射手は、ファイナルと同様に、5発のシリーズを同じ時間、同じ条件で均衡が破られるまで射撃を行う。</p> <p>その他の射手は、同点の射手がわかったら、直ちに射座から離れなければならない。</p> <p>同点のシュートオフは遅延なく始められる。</p> <p>1位と3位で同点であった場合、3位決定から先に行われる。</p>

6.16.7 25mラピッドファイアピストル男子種目のファイナル手順

ファイナル	<p>ラピッドファイアピストル男子のファイナルは4秒射の5発シリーズのヒットオアミススコアによる4～8シリーズで行われ、4シリーズ目から最下位のファイナリストのエリミネーションが開始される。</p>
本選	<p>60発のフルプログラム(8.6.4.3)がファイナルのための本選として実施される。本選における上位6名の選手がファイナルに進める。射座は、本選における選手の順位によって左から割り当てられる。ファイナリストは0点から始める。</p>
標的	<p>25m電子標的の5的グループ3つを使用しなければならない。それぞれの5的グループに1.5m離れた2射座が指定される。それぞれの射手は射撃姿勢をとったときに、6.3.16.6に示された射座の左右に描かれた線(標的グループの中心線から両側に75cmずつ離れた線)に少なくとも片足が触れていなければならない。</p>
採点	<p>採点はヒットオアミススコアのみで、1ヒットは1ポイント、1ミスは0ポイントとなる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の9.7点の範囲となるが、ISSF選手権大会のファイナルにおけるヒットゾーンの実際の大きさはISSF理事委員会によって調整され、ヒットゾーンの大きさの変更のある場合は前もって発表されなければならない。各本射シリーズにおけるヒットとミスの表示は各射手のモニターおよびファイナル射場のスクリーンに示される。</p> <p>ファイナルの選手は0点から始まる。本選の結果によりファイナ</p>

	<p>ルに参加する選手が決まる。ファイナルを通じて、それぞれの射手のスコアは加算される。ファイナルの全てのシリーズ（シュートオフは除く）で撃ったヒットの総合計によってそれぞれの射手の順位は決定される。</p> <p>1本射シリーズ内で得点の減点が生じた場合、0点を下回る採点は記録されない（例：3ヒットから減点1は2ポイント、0ヒットから減点1は0ポイント）</p>
<p style="text-align: center;">出頭と開始時刻 30分前</p>	<p>ファイナルの開始時刻には本射第1シリーズの“LOAD（ロード）”の号令がかかる。選手は少なくとも開始時刻の30分前に待機場所に出頭しなければならない。射手が待機場所に遅れて出頭してきた場合、ファイナルの本射第1シリーズの得点から1ヒットのペナルティが減点される。</p> <p>選手は用具、競技用の服装および表彰式で着用するチームユニフォームを報告しなければならない。 Jury はファイナリストの出席と彼らの名前と所属が採点システムとスコアボードに正しく記入されているかを確認するためにファイナルスタートリストを用いなければならない。この報告時間の間に選手は必要ならば服を着替え、Jury は用具チェックを完了しなければならない。選手は開始時刻の少なくとも15分前に、故障したピストルを交換するための予備ピストルを含め彼らの用具を設置することを許可されなければならない。銃ケースと用具箱は射撃線の後の競技場内に残しておいてはならない。</p>
<p style="text-align: center;">準備時間と試射 10分前</p>	<p>選手紹介の前に準備時間と1回の試射シリーズが行われる。射場長は選手を開始時刻の10分前に射撃線に呼び出す。射場長は“PREPARATION TIME BEGINS NOW.（プレパレーション タイム ビギンズ ナウ）”の号令により2分間の準備時間を開始する。</p> <p>2分後、射場長は“END OF PREPARATION.（エンド オブ プレパレーション）”の号令をかける。</p> <p>試射シリーズは準備時間の後直ちに開始されなければならない。試射シリーズは次の号令と発射の詳細手順に記載された同じ号令と同じ時間進行によって行われる。各選手は4秒射5発の試射シリーズを1回、左側の選手から順に撃っていく。試射シリーズでは採点の発表は行われぬ。試射シリーズの後、ファイナリストは抜弾したピストルをベンチに置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員</p>

	<p>は薬室が開放され、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認しなければならない。</p>
<p>ファイナリストの紹介 6分前</p>	<p>試射シリーズの後、アナウンサーはファイナリストの名前、本選成績、それぞれのファイナリストの最重要な実績の短い情報によりファイナリストを紹介してゆく。アナウンサーは担当の射場長およびジュリーも紹介する。紹介の後、選手は直ちに指定の射座に戻り、“LOAD（ロード）”の号令を待つ。ファイナリストの紹介の始まった時に指定された射座にいないファイナリストは本選の成績により自動的にファイナルの最下位が与えられ、ファイナルへの参加は許されない。</p>
<p>号令と射撃の詳細手順</p>	<p>ファイナルのそれぞれの本射シリーズは4秒射5発のシリーズで構成される。それぞれのシリーズは競技に残っている全ての射手が一人ずつ順に撃ていく。射撃は全てのシリーズにおいて左から右の順に行われる。</p> <p>選手の紹介の30秒後、射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES, LOAD（フォーザファーストコンペティションシリーズロード）”の号令をかける。“LOAD”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する（8.6.4.2はファイナルでは適用されない）。</p> <p>本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾装に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD”の号令の後、選手はピストルの調整、照準練習、腕の振り上げを、同じ5的の標的グループについている選手が射撃している間を除いて、行うことができる。射撃をしている選手と同じ5的の標的グループのもう一方の射手は、その間、準備のためにピストルを手に取りすることはできるが、照準練習と腕の振り上げはできない。</p> <p>“LOAD”の号令の1分後、射場長は“[苗字] OF SHOOTER #1（[苗字] オブ シューター ナンバーワン）”の号令で最初の選手を呼び出す。名前が呼ばれた後、その選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。</p> <p>最初の選手の名前を呼んで15秒後、射場長は“ATTENTION（アテンション）”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。最初の射手はREADYポジション（8.6.1）を取らなければならない。7秒後に緑色ランプが点灯する。4秒射の後、10～1</p>

	<p>4 秒間（標的のリサイクルタイム）赤色ランプが点灯する。この 10～14 秒間に、アナウンサーはそのシリーズの得点の発表をする（例：4 ヒットなど）。</p> <p>最初の選手の得点が発表された直後、EST 技術役員が標的の準備ができた合図として赤色ランプが消灯する。赤色ランプが消えたらすぐに、射場長は“ [苗 字] OF SHOOTER # 2 ”の号令をかける。15 秒後、“ATTENTION”の号令がかけられ、そのシリーズの手順が開始される。シリーズ後、アナウンサーが得点を発表する。</p> <p>他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、順に撃ち続ける。</p> <p>全ての射手が 1 シリーズを撃ち終わった後、30 秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。</p> <p>第 2 シリーズのために、射場長は“ [苗 字] OF SHOOTER # 1 ”の号令をかけ、ファイナルを続ける。</p>
<p>ファイナルの開始</p>	<p>ファイナリストの紹介が完了して 30 秒後、射場長は最初の選手に対する射撃手順を始めるための号令をかける。この手順は競技に残っている全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで続けられる。競技に残っている全ての選手は競技の場面の必要に応じて追加のシリーズについても号令を受ける。（号令と射撃の詳細手順参照）</p>
<p>エリミネーション （ELIMINATION）</p>	<p>全てのファイナリストが第 4 シリーズを撃ち終わった後、最下位の射手が敗退する（6 位）。</p> <p>残ったファイナリストが第 5 シリーズを撃ち終わった後、最下位の選手が敗退する（5 位）。残ったファイナリストが第 6 シリーズを撃ち終わった後、残った選手の最下位が敗退する（4 位）。残ったファイナリストが第 7 シリーズを撃ち終わった後、残った選手の最下位が敗退する（3 位、銅メダリスト）。</p> <p>敗退した選手は、立ち去る前に、ピストルを抜弾（弾倉をはずし薬室を開放する）し、ベンチに置かなければならない。すでに装填してある弾倉も抜弾しなければならぬ。射場役員は薬室が開放され、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認しなければならない。</p>
<p>ファイナルの完了</p>	<p>2 名の残ったファイナリストが第 8 シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“RESULTS ARE F</p>

	FINAL. (リザルト アー ファイナル)” とアナウンスする。最高位の選手が金メダリストとなり、2番目の選手が銀メダリストとなる。
メダリストの発表	“RESULTS ARE FINAL” の後、アナウンサーは直ちに次のアナウンスを行う。 「優勝は (名前) 選手、(所属)、得点 (総得点) 点。」 「2位は (名前) 選手、(所属)、得点 (総得点) 点。」 「3位は (名前) 選手、(所属)、得点 (総得点) 点。」
レイト ショット (LATE SHOTS)	もし選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全5的を撃ちきれなかった場合、オーバータイムショット1発につき1ヒットの減点はそのシリーズのスコアに科せられる。そのショットは“OT” と記録される。
故障	故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確かめなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを再射しなければならない。その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために15秒与えられる。これ以外の故障に対して、再射は許されず、表示されたヒット数が加算される。 もしその故障が許容できないものであったなら、その選手の得点から2ヒットのペナルティが減点されなければならない。
同点の順位決定	敗退すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加のタイブレーキングシリーズ (4秒射) を同点が解消されるまで行う。どのタイブレーキングシリーズも左側の射手から開始される。 タイブレーキングシリーズでは、射場長は “ [苗 字] O F S H O O T E R # 1 ” の号令をかけて最初の同点の選手の名前を呼び、その後は通常の射撃手順が行われる。

- 6.16.8 標的の故障—10m、25m、50m種目
- 6.16.8.1 すべてのファイナル標的で故障が起きた場合、次の手順が用いられなければならない。
- 6.16.8.2 全射手の完了した発射弾／シリーズは小計として採点される。
- 6.16.8.3 故障が1時間以内に直らずファイナルを続けることができない場合、記録された小計が競技のファイナル得点として採点され、それを基に表彰が行われる。
- 6.16.8.4 1時間以内に故障が修理され、ファイナルの継続が可能ならば、次の手順が採用される。

- 6.16.8.4.1 **10mおよび50m種目**
残りの弾数を完射する。射手の準備が整った後、5分間の弾数無制限の試射が許される。
- 6.16.8.4.2 **25m種目**
残りの弾数／シリーズを完射する。25mピストル種目では1回の試射シリーズが許される。
- 6.16.8.5 **1つの標的装置が故障した場合**
- 6.16.8.5.1 **10mおよび50m種目**
射手は予備射座に移動する。射手の要望により、採点されなかった発射弾の再射の前に、2分間の追加の試射が許される。
- 6.16.8.5.2 **25m種目**
- 6.16.8.5.2.1 **25mピストル女子種目**の射手が移動するかまたは標的を交換する。射手の要望により、採点されなかった発射弾の再射の前に、追加の試射シリーズが許される。
- 6.16.8.5.2.2 **25mラピッドファイアピストル男子種目**において、標的グループ内の5つのうち1個以上標的が故障した場合、射手は別の標的グループに移動する。射手の要望により、採点されなかったシリーズまたは続くシリーズを撃つ前に、1回の試射シリーズが許される。
- 6.16.8.6 **最終公式成績**
- 6.16.8.6.1 25mラピッドファイアピストル男子種目を除くすべての種目でファイナルの結果は本選の個人の記録に加えられる。
- 6.16.8.6.2 25mラピッドファイアピストル男子種目では本選の結果はファイナルにおけるヒット数（シュートオフで記録したヒット数を除く）と同じように示される。しかし本選の得点はファイナルのヒット得点とは加算されない。ファイナルの成績はファイナルにおけるヒット数（シュートオフのものを除く）単独で決定される。
- 6.16.8.6.3 25mラピッドファイアピストル男子種目を除くすべての種目で本選とファイナルの合計の結果はメインスコアボードに掲示され、公式成績表として印刷されなければならない。
- 6.16.8.6.4 25mラピッドファイアピストル男子種目では結果（6.16.7より）はメインスコアボードに掲示され、公式成績表として印刷されなければならない。
- 6.16.9 **ファイナルでの抗議**
- 6.16.9.1 抗議は、射手またはコーチが手をあげることにより、即座に行われなければならない。
- 6.16.9.2 いかなる抗議も直ちに射場ジュリーによって裁定される。
そのジュリーの裁定は最終のものであり、抗議が却下された場合、抗議料

の支払いが生じる。

テクニカルルール 国内規程

6.16.4 ビームライフル、ピストル、ビームピストル種目

種目	男子／女子	射撃時間
ビームライフル（立射）	男子	75秒
ビームライフル（立射）	女子	75秒
ビームライフル（肘射）	女子	45秒
25mセンターファイアピストル	男子	速射ステージ 4シリーズ
ビームピストル	男子	75秒
ビームピストル	女子	75秒

6.16.4.4.2 我が国には独自の銃砲刀剣類所持等取締法等があり、ゆえにモニター等についても、同法を遵守したうえで、本ルールの趣旨にできるだけ沿う位置に配置する。

6.16.7 25mラピッドファイアピストル男子種目のファイナル手順

本選	<u>本選における上位から、6名以内で、競技会場において準備できる射座数に対応する人数の選手がファイナルに進める。当該競技会において、ファイナルに進める選手数は、前もって発表されなければならない。</u>
採点	<u>紙標的を使用する場合の、ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の10.0点の範囲とする。各本射シリーズにおけるヒットとミスを表示は各射手およびファイナル射場の役員、観客者ほかに見える位置に掲示されることが望ましい。</u>

ISSFドレスコード（ガイドライン）

射手の服装に関するルールISSF 6. 4. 2. 1の説明

ISSFルール 6. 4. 2. 1 : 公式行事の参加者として適切な服装で射場に現れることは競技者の責任である。このことはジュリーによって管理されなければならない。迷彩生地（カモフラージュ）の衣服は禁止される。全てのスポーツは自身が大衆やメディアに提供するイメージに影響を受ける。特にオリンピックスポーツでは、競技者がアスリートとしてみられるか、役員がプロフェッショナルとしてみられるかによって判断をされる。射撃のスポーツとしての成長の可能性とオリンピックムーブメントにおけるその将来の地位は、アスリートや役員が大衆やメディアにどのように映るかによって大いに影響を受ける。IOCやメディアの役員の協力のもとにISSFリーダーたち下した最近の評価では、試合中や表彰式で射手が着用する服装に関して問題点を見出している。特に問題なのはピストルやショットガンの射手が本選やファイナルの試合中に着ているブルージーンズやほつれた切り口の短パンである。また、表彰式において一見して所属国射撃協会や所属国オリンピック委員会のものではないと分かる服装で当然のように参加する件もある。

服装規定

この問題を提起し、良い変革を成し遂げるために、ISSF理事会は、2010年当初から適用する、ルール6. 4. 2. 1を説明する以下のガイドラインを定める。

1. 国際大会において、練習、予選、本選、ファイナルと表彰式で競技者が着用する全ての服装は適切なものが着用されなければならない。全ての服装はオリンピックスポーツにおける競技者としての射撃アスリートの良いイメージを伝えなければならない。
2. 表彰式やその他のセレモニーでは、アスリートは公式ユニフォームまたは公式トレーニングウェア（上下は練習やウォームアップ用のユニフォームでスポーツ靴を履く）の着用を要求される。団体戦ではチームメンバーは同じナショナルユニフォームを着用しなければならない。（6. 17. 5. 5）
3. ピストル競技者はルール8. 4. 5に記載されたピストル服装規定に従わなければならない。
4. ショットガン競技者 略
5. ライフル競技者はルール7. 4. 6に記載されたライフル服装規定に従った射撃ジャケットと射撃ズボンを着用しなければならない。
6. ISSFピストル、ショットガン服装規定が意図するところは、競技会における射手は国、NOC、NFの色やエンブレムを含んでいたり付いているスポーツタイプの服を着なければならないということである。競技中に着用する適切な服装はNFやNOCが支給したトレーニングスーツ、トラックスーツ、ウォームアップユニフォームなどが含まれる。
7. 競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、ジーンズまたはスポーツに適さない色の似たようなズボン、カモフラージュ柄（カモフラージュ）の衣服、ノースリーブのシャツ、

短すぎる短パン、ほつれた切り口の短パン、全てのタイプのサンダル、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージの書かれた短パンやズボンが含まれる。

8. 衣服の着替えは指定された場所で行わなければならない、競技場内では禁止される。
9. 全ての服装は、メーカーおよびスポンサーマークに関する I S S F 参加資格およびスポンサーシップルールに従っていないなければならない。
10. 原則として、I S S F ドレスコードは I S S F ジュリーや射場役員やショットガンレフリーを含む各国の技術役員にも適用される。競技会の期間中、これらの役員は禁止された服装を着用することはできないし、公式のユニフォームまたは適切な服装を着用しなければならない。

施行手順

- I S S F 用具検査、ショットガン、ピストル、ライフルジュリーは I S S F 服装規定および I S S F 服装規定のこの説明を守らせる責任がある。
- 2010年のWCでは、I S S F ジュリーは違反に関して口頭警告を与える。ジュリーは与えた全ての警告の射手の名前、所属国協会、具体的な違反の記録を残しておく。I S S F テクニカルデリゲートは I S S F 本部にこの情報を送付する。I S S F 本部は警告を受けたアスリートが多いNFがこれらの違反を正すことを促すように要求をする。
- 2010年の世界選手権から、I S S F ジュリーは1回目の違反から違反を正す事を求める文書警告を与える。文書警告を受けたアスリートが服装違反を正す（服装を換える）ことがない場合失格となる。ジュリーは用具検査や練習中に通常の警告を与える。ジュリーはもし着替えのための十分な時間がない場合、着替え前に競技者に事前練習シリーズやステージ（ショットガンと25mピストル）をする許可を与えることができる。いかなるアスリートも本選またはファイナルの競技に不適切なまたは禁止された衣服を着たままで参加することは許されない。

ISSFドレスコード 国内規定 (ガイドライン)

射手の服装に関するルール ISSF 6. 4. 2. 1 国内規定の説明

【経緯】

ISSFにおいては、2009年1月よりドレスコードを改正し、適用しているところであるが、当協会においては、適用の範囲等が明確にされていないことから適用を見送ってきたところであるが、WC等に派遣したジュリーよりドレスコードの適応状況について情報が得られたことから、国内におけるドレスコードの適応範囲を定め、実施することとした。

なお、適用に際して当協会では、ISSFドレスコードの主旨と、日本国内の競技環境等を勘案して、次の運用を行うこととした。

1. 対象となる競技会は、公認競技会の格付規程に定めるグレード1、グレード2，格上グレード3の競技会とする。
2. 適用範囲は、射座、役員通路、表彰会場とする。
開始時期は、平成23年4月1日とする。ただし、平成24年3月31日までは、当該選手等に対して趣旨を説明し、服装違反を正すように指導したうえで、競技会参加を認める。
3. 競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、またはスポーツに適さない色の似たようなズボン、カモフラージュ柄の衣服、ノースリーブのシャツ、短すぎる短パン、ほつれた切り口の短パン、全てのタイプのサンダル、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージの書かれた短パンやズボンが含まれる。なお、チノパンツ、ブルー以外の色のジーンズについては当面の間は可とする。
4. 原則として、ISSFドレスコードは当協会の公認する競技会のジュリーや射場役員を含む技術役員にも適用される。競技会の期間中、これらの役員は禁止された服装の着用は認められない。公式ユニフォームまたは適切な服装を着用しなければならない。

競技運営に関する国内規定ルール6.4.10.2 (ガイドライン)

競技会での銃砲所持許可証他の取扱についての国内規定の説明

国内規定 6.4.10.2 : 競技会に参加する射手は、会員証、銃砲所持許可証、火薬類譲受許可証、射手手帳を持参しなければならない。使用する銃器、弾薬は日ラ検定済みのものとする。に対しての、ガイドラインを以下に定める。

1. 競技会開催時に実施される検査において必要とされる物は次のとおりとする。

① 銃砲所持許可証

銃砲所持許可証、年少射撃資格者の場合は年少射撃資格認定証と年少射撃監督者の銃砲所持許可証の両方、省庁銃については所属長の発行する携帯証明書

年少射撃監督者が自身の指導用空気銃、指導用空気けん銃を使用して競技会に参加することは認めない。

猟銃等製造事業の許可、猟銃等販売事業の許可による銃砲を使用しての競技会参加は認めない。

② 日ラ会員証

日ラ会員証を忘れた場合は、当該選手の所属する加盟団体の責任者による確認が取れた場合については、競技会参加を認める。

③ 射手手帳

射手手帳を忘れた場合は、注意したうえで、競技会参加を認める。

④ 火薬類譲受許可証

火薬類譲受許可証を忘れた場合は、注意したうえで、競技会参加を認める。